

測定結果について

— 旭川医科大学の研究による相関関係 —

脊柱側弯症について長年研究を行ってきた旭川医科大学整形外科脊柱班により、側弯症外来の臨床成績の統計解析から側弯角（Cobb 角※¹）20 度以上発見するための腰背部傾斜角のカッティングポイント（2 パターン）が見出されました。

パターン①

- ・ R 最大測定値(Rmax)または、L 最大測定値(Lmax)の値が 7 度以上

パターン②

- ・ Rmax、Lmax の合算値(R+L)が 10 度以上

「スコリオデバイス」は上記の角度を測定できるデバイスです。

パターン①、②のいずれか又は両方に該当する測定値の場合は医療機関への受診をご検討ください※²。

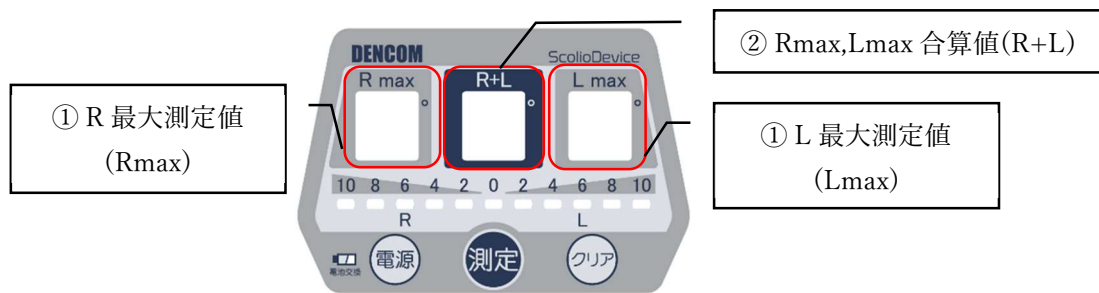


図 1：スコリオデバイス 表示画面の見かた

参考文献

今井 充、神保 静夫、小林 徹也：モバイルデバイスを用いた Intelligent 型脊柱側弯症発見装置 (i-Scolioroller) の開発と有用性の検討. Journal of spine Research. 2017 ; 8 (11) : 1720-1725

神保 静夫、今井 充、小林徹也：脊柱側弯症発見装置(i-Scolioroller)を用いた側弯検診の精度を高める取り組み-左右傾斜角和(sum-ATI)を計測値として-. Journal of spine Research. 2018 ; 9 (11) : 1588-1592

補足

※1 Cobb 角：上下で最も傾いている背骨同士のなす角度

(引用：日本側弯症学会.「側弯症とは、どんな病気か？」.

<https://www.sokuwan.jp/patient/disease/index.html>,(参照 2024-07-30))

※2 本デバイスは腰背部の傾斜角度を測定するためのデバイスであり、側弯症であることを断定するものではありません。

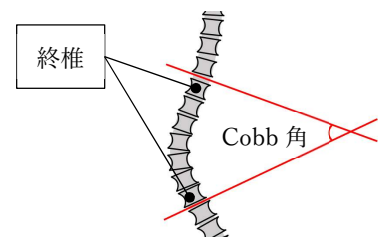


図 2：前(後)面からみた脊柱